

J-Stock アクティブ・オープン

追加型投信／国内／株式

日経新聞掲載名：Jストック

2022年10月21日から2023年10月20日まで

第 20 期 償還日：2023年10月20日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは主としてわが国の新興企業の株式へ投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

ここに当期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。

当期の状況

償還価額(償還日)	27,236円16銭
純資産総額(償還日)	1,010百万円
騰落率(当期)	+11.1%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976

受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1

<https://www.smd-am.co.jp>

当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年10月21日から2023年10月20日まで)

基準価額等の推移



※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	24,515円
償還日	27,236円16銭
騰落率	+11.1%

※当ファンドの参考指数は、東証スタンダード市場指数(配当込み)です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2022年10月21日から2023年10月20日まで)

わが国の新興市場(東証プライム市場以外の市場)で取引される銘柄を中心に、割安銘柄に限定して投資を行いました。

上昇要因

- 新規公開後に買い付けたグッピーズや南海化学が、好業績をきっかけに上昇したこと
- ダイハツディーゼルが、受注好調や円安による業績改善で上昇したこと

下落要因

- 下落局面で買い付けたイノベーションやブリッジインターナショナル、Zenken(旧全研本社)が、その後の業績悪化によってさらに下落したこと

1万口当たりの費用明細(2022年10月21日から2023年10月20日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	431円	1.650%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は26,102円です。
(投信会社)	(207)	(0.792)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(201)	(0.770)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(23)	(0.088)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	28	0.108	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(28)	(0.108)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	2	0.006	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数 保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用 その他:信託事務の処理等に要するその他費用
(保管費用)	(-)	(-)	
(監査費用)	(1)	(0.005)	
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	460	1.764	

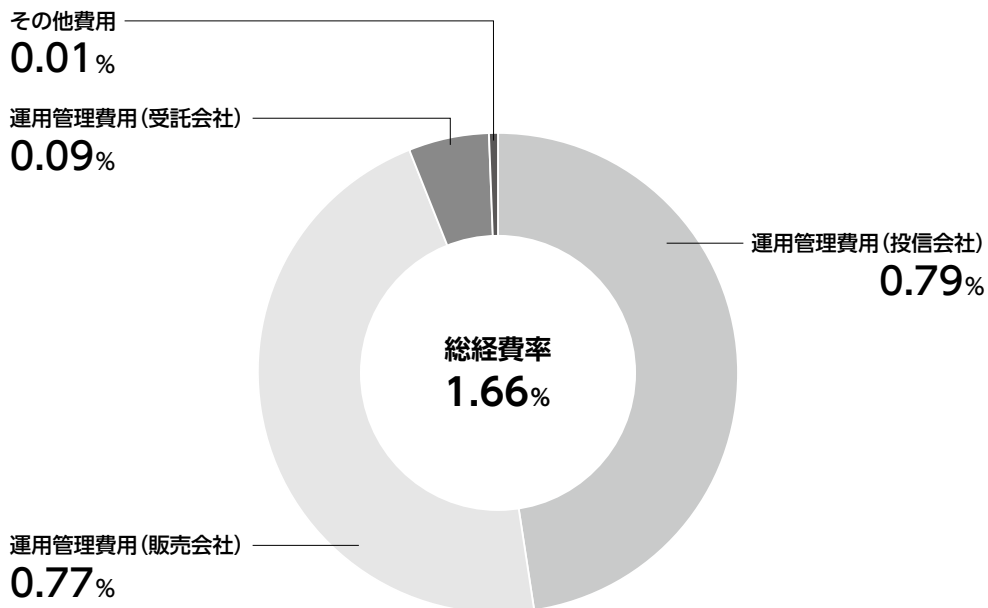
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

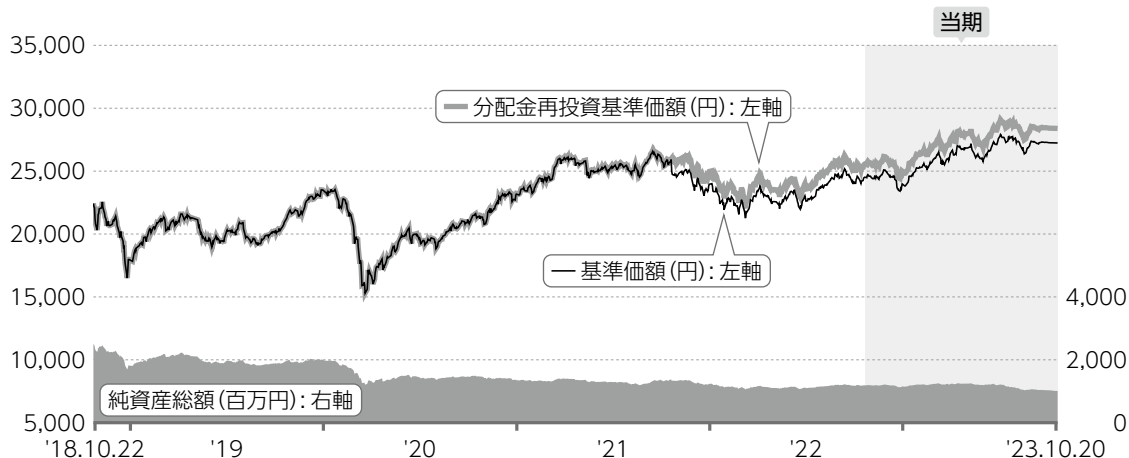
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.66%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年10月22日から2023年10月20日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年10月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.10.22	2019.10.21	2020.10.20	2021.10.20	2022.10.20	2023.10.20
		決算日	決算日	決算日	決算日	決算日	償還日
基準価額	(円)	22,434	21,139	21,398	24,969	24,515	27,236.16
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	0	50	1,000	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-5.8	1.5	21.4	-1.8	11.1
参考指数(J-Stock Index)騰落率	(%)	—	1.7	17.1	11.9	—	—
参考指数(東証スタンダード市場指数(配当込み))騰落率	(%)	—	—	—	—	—*	15.0
純資産総額	(百万円)	2,501	1,955	1,474	1,328	1,190	1,010

※東証スタンダード市場指数(配当込み)は、2022年4月4日から指数の提供が開始されたため、2022年10月20日の騰落率は表示していません。

参考指数について

※当ファンドの参考指数としていたJ-Stock Indexが2022年4月1日で算出終了となったため、2022年4月4日より東証スタンダード市場指数(配当込み)を新たな参考指数としました。

※参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

投資環境について(2022年10月21日から2023年10月20日まで)

株式市場は、上昇しました。ただし、東証スタンダード市場の上昇率は、市場全体と比べて小幅にとどまりました。

株式市場

久々に外国人投資家の注目が日本株に集まったため、日本株市場は上昇しました。

ただし、彼らの物色対象が大型株中心であったため、東証スタンダード市場の上昇率は緩やかなものにとどまりました。

ポートフォリオについて(2022年10月21日から2023年10月20日まで)

期間の初めより、東証スタンダード市場を中心に、割安銘柄に限定して投資を行いました。ただし、償還準備のため、2023年9月以降は組入比率を引き下げました。

●株式組入比率

2023年8月までは、原則的に80%台後半でコントロールしました。

●業種配分

期中においては、直近公開銘柄に対する投資を積極的に行なった影響で、情報・通信業の比率が上昇しました。一方、低流動性銘柄の売却を前倒しで進めたため、建設業の比率が低下しました。

●個別銘柄

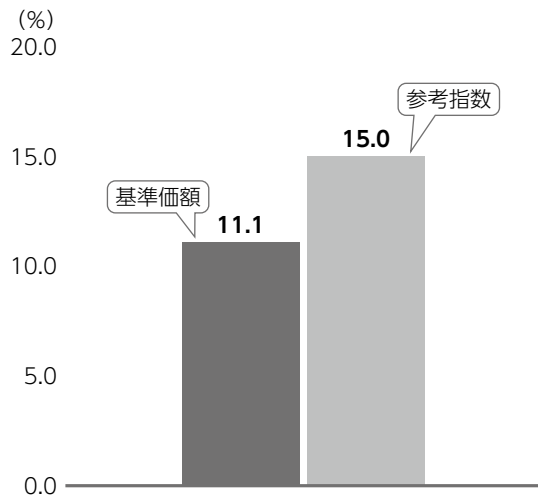
グッピーズやコーチ・エィ、エフビー介護サービスといった直近公開銘柄を積極的に買い付けました。

●ポートフォリオの特性

割安株投資を徹底していたため、新興市場全体と比べてP E R(株価収益率)は低水準で推移しました。

ベンチマークとの差異について (2022年10月21日から2023年10月20日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数として東証スタンダード市場指数(配当込み)を設けています。記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について (2022年10月21日から2023年10月20日まで)

償還のため、該当事項はございません。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

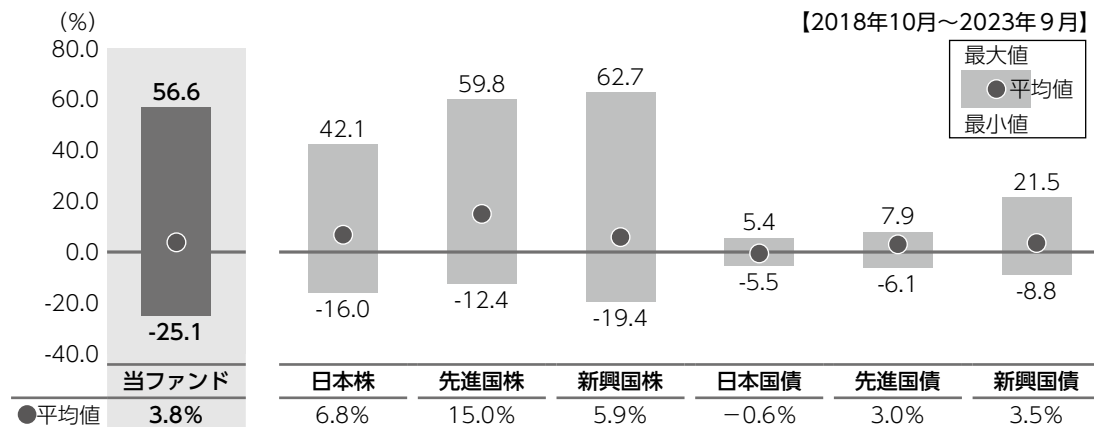
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式
信 託 期 間	2003年11月21日から2023年10月20日まで
運 用 方 針	主としてわが国の新興企業の株式へ投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。
主 要 投 資 対 象	わが国の新興市場(東証プライム市場以外の市場)で取引される株式
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■主としてわが国の新興市場(東証プライム市場以外の市場)で取引される株式へ投資を行います。 ■運用にあたっては、ボトムアップ・アプローチによる企業調査(リサーチ)を重視したアクティブ運用を行います。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資割合には制限を設けません。 ■外貨建資産への投資は行いません。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年10月20日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI (国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容(2023年10月20日)

有価証券等の組入れはありません。

純資産等

項目	第20期末 2023年10月20日	※当期における、追加設定元本額は31,823,151円、解約元本額は146,158,901円です。
純資産総額 (円)	1,010,872,634	
受益権総口数 (口)	371,150,930	
1万口当たり基準価額 (円)	27,236.16	

7 償還を迎えて

当ファンドは、2023年10月20日に償還となりました。

皆さまのこれまでのご愛顧に御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをお引立て賜りますよう、お願い申し上げます。